

## コケ林

然別湖周辺の森はコケで覆われており、この辺りの風穴が点在するゴツゴツした斜面にもコケが生えています。コケがあることで、雨が吸収され、土に水分が保持され、周囲環境の湿気が保たれるため、他の植物もよく育ちます。コケには風穴の断熱効果もあり、春から夏にかけての氷の解凍速度を和らげ、秋・冬には野生生物にある程度の温かさを提供してくれます。

然別では、通常なら一緒には見られないような亜高山性のコケとミズゴケなどのコケ類が、互いの近くに生えています。空気が湿っている風穴の周辺などに、特に多く生えています。

### 特有のコケ類

世界に1万種以上存在するコケ類のうち1,600種が日本で見つかっており、その多くがとちぎ鹿追ジオパークに生えています。ジオパークに生えている固有種には、アップルモス、ダチョウゴケ、ヒカリゴケに加え、ミズゴケも数種含まれます。アップルモスは、草のようなコケで、数センチ程の長さの茎とリンゴ型の孢子嚢が上部に付いているのが特徴です。ダチョウゴケは、羽のような葉状体の茎が特徴です。ダチョウゴケは、日本各地の高山地帯に生えており、然別の風穴付近で見ることができます。ヒカリゴケは光るコケで、岩間の狭い空間や風穴の中、あるいは樹洞など、暗い環境に生えています。影になると、明るい緑色に光ります。

ミズゴケやピートモスは、湿気のある環境を必要とし、湿地帯ではかなり一般的なコケです。

針葉樹林や湿気のあるツンドラ地帯でも見ることができます。然別の山岳地帯では、密集して生える

ためブロッコリーのような見た目になる小さく赤いピートモスや、葉先に星型の房ある 5 ランクのみズゴケなど、6 つのみズゴケ類が確認されています。5 ランクのみズゴケは、赤みがかった緑色や赤色のものが存在します。

然別湖エリアは、日本蘚苔類学会により貴重なコケの森に指定されています。